

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

至学館大学

2026年度 大学入学共通テストプラス入学者選抜試験

国 語

〈注意事項〉

- 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 受験番号欄
受験番号（数字及び英字）を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
 - 氏名欄
氏名を記入しなさい。
 - 解答科目欄
解答する科目名の左の○にマークしなさい。マークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
- 試験時間は60分です。
- この問題冊子は、15ページあります。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように問題番号10の解答記入欄の③にマークしなさい。

問題 番号	解 答 記 入 欄
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

- 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 不正行為について
 - 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退出させます。
- 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国語 共通テストプラス入試

第1問 次の文章を読み、後の問い(問1～問9)に答えよ。(文章は設問の関係から一部変更している)

無知を「ジャンク(注1)な情報で頭がぎっしり詰まっていて、新しい入力が増害されている状態」と定義すると、おのずから「知的」というのがどういふことかわかる。それは乾いたスポンジが水を吸うように、新しい知に対しての「カツボウ」に焼かれている状態のことである。

「学ぶ」ということを、容器の中に知識や情報を詰め込んでゆくことだと考えている人が多い。でも、それは違う。「学ぶ」というのは、容器そのものの形状がどんどん変化して、容積が変化して、機能が変化してゆくことである。入力があるたびに、容器そのものが別ものに変化してゆくことを「学ぶ」と言うのである。

『三国志』の「呉下の阿蒙」の故事に「士三日会わざれば、刮目して相待すべし」という言葉がある。学ぶ人間は三日会わないと別人になっているので、⁽¹⁾目を見開いて相まみえるべしという教えである。私が子どもの頃まではよく耳にした。でも、この三十年ほどは絶えてこの文字列を目にすることがなくなった。

「人間は『ほんとうの自分』を探し出して、それを見出したら、後はもう変わってはならない」という「アイデンティティ神話」がいつの間にか支配的なイデオロギー(注2)になったせいだろうけれど、その話をするとな長くなるので、ここではしない。いずれにせよ、少し前までは、三日で別人になるという連続的な自己刷新のことを「学び」と呼んでいたのだけれど、ある時期から誰もそんなことを言わなくなった。

でも、学ぶことによって、人は語彙が変わり、表情が変わり、声が変わり、立ち居ふるまいが変わる。すべてが変わるといふ人間観・教育観に私は同意する。学校教育とは子どもたちが連続的に、Aになることを支援してゆくことである。私はそう考えている。

無知に^(a)甘んじ、無知に安住しようとする子どもたちを自己刷新のプロセスに導くことが教師の仕事なのである。無知に居着いた子どもたちをそこから解きほぐすのは簡単な仕事ではない。⁽²⁾子どもたちが無知に居着くのは、ある意味自己防衛のためだから

である。

子どもたちは「半分野生」だという話を前にした。その半分野生の子どもたちを、そつと人間の世界に導くのが教育の仕事である。大人が無理やりに子どもを野生から文明に引きずり込むと、子どもたちに深い精神外傷を残すことがある。子どもの成熟はあくまで子どもたち自身の発意による自己刷新でなければならない。

【B】というのは、自分がその中に棲みつき、そこに安住してきた「家」から出ることである。外へ踏み出すことである。その時に、子どもは無防備な状態を一時的に通過する。この移行期において、子どもはひどく脆く、傷つきやすい状態になる。甲殻類が硬い外被を脱ぎ捨てて、一時的に傷つきやすい柔らかい皮膚をさらさなければ成長できないように、子どもが自己刷新するためには一時的に傷つきやすく柔らかい肌を外気にさらさなければならぬ。連続的な自己刷新というのは非常に危険な企てなのである。自己防衛システムを一時的に解除した、脆く、傷つきやすい状態にある時に、誰かに傷つけられた経験を持った子どもはそれがトラウマ（注3）となつて、それ以後自分を変えるのを止めてしまう。自分の手持ちのスキーム（注4）を手離れた時に受けた痛みを忘れることができなくなる。

「オレは絶対に自分の生き方を変えない」と**(b)**肩肘張っている子どもが時々いるが、そうなるのは彼らの罪ではない。一度は自己刷新を試みたことがあるのだけれど、その時に誰かに傷つけられ、その痛みがあまりに耐えがたいものだったので、それ以後自己刷新の企てを恐れるようになった。そういう子どもが「自分らしさ」に固着して、自分の「殻」に引きこもつて、そこから出ないようになる。

大学の教師をしていると、それはよくわかる。大学に入ってきた新入生たちを見ると、程度の差はあれ、多くが中等教育の間に何らかのトラウマ的な経験をしている。成長するために、自分の「殻」から抜け出そうとした時に、脆く傷つきやすい皮膚を外気にさらした時に、誰かに傷つけられた経験をしている。【C】、身を護るためにしつかり「殻」を閉じている。絶対に教師になんか心を開かないぞという決意をもっている子もいる。

彼らに「怖がることはないよ。殻を捨てて、心を開いても誰も君を傷つけないから」ということを信じさせるために二年くらい

かかる。そこまでで大学生活の半分が終わってしまう。だからようやく三年生になってからはじめて大学らしい「学び」がはじまる。困ったものである。

だから、学校教育、特に中等教育に関わっている人たちにお願ひしたのは、子どもたちが心を開いた時に、ひどく可傷的で脆弱な状態になった時に、決して傷を負わせないように護ってほしいということである。学校というのは、その意味では本来は「温室」でなければならぬ。子どもたちがどれだけ無防備になっても、誰からも傷つけられるおそれがないということを先生たちはホシヨウしてあげないといけない。

(内田樹『だからあれほど言ったのに』)

(注1) ジャンク：ガラクタ、役に立たないもの。

(注2) イデオロギー：思想、信条、価値観などでの体系的な概念。

(注3) ト라우マ：心的外傷。精神的な苦痛に伴う出来事で心に深い傷を残す状態。

(注4) スキーム：特定の目的を達成するための計画や枠組み。

問1 文中(ア)・(イ)の傍線部を漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものはどれか。次の①～⑤から一つずつ選べ。

(ア) カツボウ

問題番号

1

① カツキ的な発明をした。

② カツテに使う。

③ カツ口を見出す。

④ 資源がコカツする。

⑤ 山をカツコウした。

(イ) ホシヨウ

問題番号

2

① 事件をケンシヨウする。

② 文化をケイシヨウする。

③ 国家をセイシヨウする。

④ ツウシヨウ条約を結ぶ。

⑤ 損害をホシヨウする。

問2 文中の傍線部(1) 目を見開いて相まみえるべしの意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

問題番号 3

- ① 正々堂々と相手に対面するべきである。
- ② 相手の変化に気を付けて対面すべきである。
- ③ 相手の目をしっかりと見て対面すべきである。
- ④ 相手をおそれずに対面すべきである。
- ⑤ ほんとうの自分を見失わないよう注意して対面すべきである。

問3 文中の空欄 A に入る最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

問題番号 4

- ① ほんとうの自分
- ② 学ぶ人間
- ③ 人間
- ④ 大人
- ⑤ 別人

問4 文中の傍線部(a) 甘んじを用いた文として適当でないものを、次の①～⑤から一つ選べ。

問題番号 5

- ① 敗北に甘んじることなく、自らの勝利を目指した。
- ② 首位の座に転落して下位に甘んじることとなった。
- ③ 熱心に練習をするなど才能に甘んじて力を高めた。
- ④ 何もしないことに甘んじることを許さないうでいた。
- ⑤ 与えられた役割に甘んじることが成長を遅らせた。

問5 文中の傍線部(2) 子どもたちが無知に居着くの意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 問題番号 6

- ① 子どもたちが知識や情報に対して満足して過ごしている。
- ② 子どもたちが自分自身に満足して過ごしている。
- ③ 子どもたちが新しい情報のあることに気づかないでいる。
- ④ 子どもたちが新しい情報を取り入れないままである。
- ⑤ 子どもたちが本当の自分に固執して大人の声を聞かない。

問6 文中の空欄 Bに入る最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 問題番号 7

- ① 自己刷新
- ② 自己防衛
- ③ 半分野生
- ④ 精神外傷
- ⑤ 学校教育

問7 文中の傍線部 (b) 肩肘張っているの意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 問題番号 8

- ① 主張して自分の意思を見せる。
- ② 威張り、強がってみせる。
- ③ 堂々として自分の意見を述べる。
- ④ 人と競り合って自己主張する。
- ⑤ 人の意見に左右されることがない。

問8 文中の空欄 Cに入る最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。 問題番号 9

- ① しかし
- ② すると
- ③ だから
- ④ つまり
- ⑤ ところで

問9 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤から一つ選べ。

問題番号

10

- ① 子どもが無防備になることで深い精神外傷を残す場合には、学校は子どもを護る温室でなければならない。
- ② 子どもが自己刷新して成長するためには、教師は子どもを人間の世界に導ける温室でなければならない。
- ③ 子どもが自己刷新して成長する過程では無防備で傷つく必要があるので、学校は温室でなければならない。
- ④ 子どもが自己刷新して成長するためには、学校は子どもを傷つけないように護る温室でなければならない。
- ⑤ 子どもが学び成長する時には、心を開けず無防備で脆弱になるので、学校は温室でなければならない。

第2問 次の文章を読み、後の問い（問1～問8）に答えよ。（文章は設問の関係から一部変更している）

多くの人がストレスを抱えながら生きています。そのストレスの大半は人間関係によるもの。さらにそのうちの多くの部分を、家族関係によるストレスが占めていると考えられています。

職場や学校ならば、重い決断ではありませんが、退職する、退学するという選択肢があります。いざとなったら逃げ場がないわけではありません。

（a）、家族から逃げるとなると、よりそのプロセスは困難になっていきます。婚姻関係であれば解消するということも不可能ではありませんが、親子や兄弟姉妹という関係は法的にも絶つことが非常に難しくなっています。日本では殺人事件の件数そのものは減少しているのに、家族間での殺人事件の割合は増加しています。これは、ひとつにはこの^(ア)ヘイソク感が影響していると言えるでしょう。

（中略）東日本大震災（2011年）が起きて以降、急速に「絆^{きずな}」という言葉が金科^{きんこ} [A] のように語られる時代になってきました。共同体の関係を強めようとするものを、（b）私たちの脳は美しいと感じるようになってきています。誰かのための苦労だったり、自己犠牲的な行動であったり、絆というものを再確認させてくれる何かに私たちは美しさを感じます。

いっぽうで、それを批判したり揶揄^{やゆ}したりすることは容易にはできません。親の恩というのも同様でたしかに [B] には尽くしたいものがあります。自分の時間や労力を使い、仕事を辞めたり、健康を損なってまで自分を産んでくれた、育ててくれた、など。

言葉にしてしまうと安っぽいかもしれませんが、実際には非常な労苦をとまなう一大事です。それを考慮すれば、親の存在や行為を、困った、不快だ、苦しい、と思っても、なかなか簡単には解決できないところだろうと思います。

(1) 親子というのはどうしてこんなに息苦しいのでしょうか？

そこには脳内ホルモン（注1）であるオキシトシンが深く関与しています。オキシトシンというのは人と人の絆をつくる物質で

す。仲間を助けたり、弱い者を守ったり、子どもを育てたり、信頼を強めたりといった行動に直結し、「愛と信頼のホルモン」という呼び方もあります。

これだけを見ると、オキシトシンの⁽¹⁾ソクシンする行動は良いものであり、オキシトシンは増えれば増えるほどよいのではないかと、という印象を受けると思いますが、⁽²⁾そう簡単にはいきません。実は、オキシトシンが増えると、「妬み」「憎しみ」の感情も強まってしまうのです。□ C □、とはよく言ったものです。□ ① □。

この感情がオキシトシンによって高まるのには理由があります。

オキシトシンは、先に述べたように人と人との絆を強める方向に働く物質です。ということは、人と人との絆を分断しようとする人や、仲間同士の良好な関係を壊しかねないような人、みなで仲良くすごしている共同体のルールを破ろうとする人に対しては、これを攻撃するという行動をソクシンする働きを同時に持つのです。

絆を分断する、良好な関係を壊す、共同体のルールを破る、といった反社会性の^{けんげん}顕現とみなすことのできる行動に対して、この芽を摘んでおこう、というのがオキシトシンの本来の役割です。一言で言うと、反社会性に抗して向社会性を高めるホルモンがオキシトシン、ということになります。□ ② □。

(C)、絆を分断する、良好な関係を壊す、共同体のルールを破る、といった行為は、どのようにして集団内の人に認知されるのでしょうか？

オキシトシンの濃度が高いとき、⁽³⁾私たちの心理には興味深い現象が起こります。

「外集団バイアス（注2）」と「社会的排除」です。

外集団バイアスとは、「自分たち」の集団に含まれず、「自分たち」と異なる人たちを不当に低くみなす認知バイアスのことです。

□ ③ □。

社会的排除とは、「自分たち」の中にいながら「自分たち」とは異質な人たちを不当に攻撃したり無視したりする結果起こる排除のことを言います。

この「異なる人」「異質な人」の存在を認めさせない、というのがオキシトシンの働きの大きな部分です。

もうおわかりでしょうか？ 家族の中でこの仕組みが働くとき、妻が夫をウソクバクしたくなり、夫は妻を支配したくなり、親が子どもをコントロールしたくなる、という現象が起こります

「子どもに逸脱を許さない」「子どもが好き勝手やることは認めない」というのは「愛情ホルモン」であるオキシトシンがそうさせるのです。④。

これらのメカニズムは非常にやっかいで、客観的な視点からは醜悪な行為に見えるものの、本人にしてみればきわめて正当な行動を正当な理由に基づいてしているとしか認知されません。

正当な理由——それは、家庭生活を守らなければ、私たちの社会を維持しなければ、共同体のルールに従わなければ、という理由です。⑤。

興味深いことに、ヘイトスピーチ（注3）をしたり、社会的弱者を攻撃したりする人たちの気持ちの中には、「自分は社会正義を執行している」「時間というコストをかけてでもこれを発信する意義がある」というある種の強い正義感が見られます。

④ この攻撃は両者とも、きわめて主観的な視点からは「共同体の絆を強めるもの」として行動に移されるものです。

恐ろしいことに、愛情と絆を強めようとする働きが、排外性と弱者への攻撃を同時に強めてしまう。愛情ホルモンこそが息苦しいまでのコントロールを成員に強いてしまうのだということが、生理的な要素として説明できてしまうのです。

（中野信子『空気を読む脳』）

（注1） 脳内ホルモン：脳内で分泌されるホルモンや神経伝達物質の総称で、心や体の健康を保つために働く物質。

（注2） バイアス：主観的な思い込みや偏見などの影響で、物事や人物を偏った見方で判断すること。

（注3） ヘイトスピーチ：特定の個人や集団を標的に、人種や宗教、民族などの属性に基づいて攻撃的な言動をすること。差別や偏見に基づく侮蔑や屈辱を与える表現などが含まれる。

問1 文中の空欄（ a ）（ c ）に入れるのに適当な語を後の①～⑩から一つずつ選べ。

（ a ） 問題番号 11

（ b ） 問題番号 12

（ c ） 問題番号 13

- ① たしかに
- ② ようするに
- ③ そして
- ④ しかしながら
- ⑤ あえて
- ⑥ くわえて
- ⑦ それでは
- ⑧ たとえば
- ⑨ まったく
- ⑩ つまり

問2 文中の傍線部（ア）（ウ）を漢字に直したとき同じ漢字を用いるものはどれか。後の①～⑩から一つずつ選べ。

（ア） ヘイソク 問題番号 14

（イ） ソクシン 問題番号 15

（ウ） ソクバク 問題番号 16

- ① 私と彼とはフソク不離の関係だ。
- ② ジンソクな対応が望まれる。
- ③ オクソクで発言してはいけない。
- ④ 彼は首相のソッキンの一人だ。
- ⑤ 会費未納者にトクソク状を送る。
- ⑥ 日常生活で得たケイケンソク。
- ⑦ 彼はコソクな解決策を提示した。
- ⑧ リーダーで標的をホソクする。
- ⑨ 彼は脳コウソクを患っている。
- ⑩ 決起集会の実施で集団のケツソクを図った。

問3 文中の空欄 A C に入れるのに最も適当な語を後の①～⑤から一つずつ選べ。

金科 A

問題番号 17

① 玉条

② 玉石

③ 絢爛けんらん

④ 財宝

⑤ 銀塊

B には尽くしがたい

問題番号 18

① 感謝

② 労苦

③ 筆舌

④ 表現

⑤ 完璧

C

問題番号 19

① 坊主憎けりや袈裟けさまで憎い

② 憎まれっ子世にはばかる

③ 恨み骨髓せつねいに徹す

④ かわいさ余あまって憎さ百倍

⑤ 人を呪ののわば穴あな二つ

問4 文中の傍線部(1) 親子というのはどうしてこんなに息苦しいのでしょうか？について、筆者の考える親子の息苦しさとして、**適当でないものを次の①～⑤から一つ選べ。**

問題番号 20

- ① 現代人のストレスの原因の多くは親子をはじめとする家族が占めているのに、容易には逃げ出せないさま。
- ② 日本における殺人事件の件数そのものは減少しているのに、家族間での殺人事件の割合は増加しているさま。
- ③ 親子の関係は兄弟姉妹関係と同様に、法的にみて解消することも絶つことも非常に難しくなっているさま。
- ④ 親の恩などの大きな代償と引き換えに受けた愛が、容易には批判したり揶揄したりすることはできないさま。
- ⑤ 親の存在や子に対する行為を、困った、不快だ、苦しい、と思っても、なかなか簡単には解決できないさま。

問5 文中の傍線部(2) そう簡単にはいきませんはどのような状態について述べたものか。最も適当なものを次の①～⑤から一つ選べ。

問題番号 21

- ① オキシトシンが増えることによって、人との絆は強まるが、場合によっては家族や仲間に対する攻撃性を高めることがあるということ。
- ② オキシトシンが増えることによって、かえって人々との絆を分断し、良好な関係を壊し、共同体のルールを破る行動が現れるということ。
- ③ オキシトシンが増えることによって、必ず仲間を助けたり、弱い者を守ったりするなどの行動が増加するとは限らないということ。
- ④ オキシトシンが増えることによって、「妬み」「憎しみ」の感情が強まり、客観的に見れば絆や良好な関係を壊すような醜悪な行動に出ることがあるということ。
- ⑤ オキシトシンが増えることによって、「妬み」「憎しみ」の感情が強まり、醜悪な行動でさえ客観的に正当化してしまうことがあるということ。

問6 文中の傍線部⁽³⁾「私たちの心理には興味深い現象が起こります」について、筆者がこのような「現象」が起こると考える理由として最も適当なものを次の①～⑤から一つ選べ。

問題番号 22

① オキシトシンが「愛と信頼のホルモン」と呼ばれるにもかかわらず、妻や夫、子どもを「異質な人」と認識させる原因となっているから。

② オキシトシンが「愛と信頼のホルモン」と呼ばれるにもかかわらず、妻や夫、子どもを差別したり攻撃を加えたりするきっかけにもなりえるから。

③ オキシトシンには、客観的に見ればどんな醜悪な行為に見えても、その当事者の意識に、その行動やその理由を正当化させようとする効果があるから。

④ 「愛と信頼のホルモン」オキシトシンには、仲間や弱いものを助けたり守ったりさせると同時に、異なる人、異質な人を認めさせず攻撃させる作用があるから。

⑤ オキシトシンは、家庭生活を守り、自分たちの社会を維持し、共同体のルールに従うという目的のためには、「愛と信頼」を高めるといふ本来の役割を抑制してしまうから。

問7 文中の空欄①～⑤のいずれかに次の一文が入る。この一文が入る適切な箇所を、空欄の番号①～⑤から一つ選べ。

問題番号 23

ヘイトスピーチもこのひとつの表れであると言えるかもしれません

問8 文中の傍線部(4) この攻撃は両者とも、きわめて主観的な視点からは「共同体の絆を強めるもの」として行動に移されるも

ので、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

問題番号 24

① ヘイトスピーチをしたり社会的弱者を攻撃したりする人の気持ちはともに、彼らが強く意識する社会正義にもとづくものであり、自分が所属する集団を守り、絆を強めようとするものである。

② 行っている本人からすれば、ヘイトスピーチにしても社会的弱者への攻撃にしても正義や意義ある行動であり、それらによつて妻や夫、子どもといった自分と共同体を構成する家族を守ろうとするものである。

③ 家族に対する過剰な介入や支配も、ヘイトスピーチなどの異なる人への攻撃も、攻撃を行う当時からすれば自分を守るために他者を排除しようとする心の動きが具現化されたものである。

④ 行っている本人からすれば、妻や夫、子どもといった家族を支配したりコントロールしたりしようすることは正義や意義ある行動であり、家族などと共同体を構成する自らを守ろうとするものである。

⑤ 家族や社会的弱者に対しての醜悪な攻撃も、正義感や意義に基づく攻撃も、どちらも攻撃を行う当人からすれば自らの所属する集団を守り、さらに強固な関係にしようとするものである。

第3問 次のア～オの慣用句の意味を、後の①～⑤から一つずつ選べ。

ア 目から鼻へぬける……………問題番号

イ 目をかける……………問題番号

ウ 目が届く……………問題番号

エ 目もくれない……………問題番号

オ 目に余る……………問題番号

- ① 注意が及ぶこと。
- ② とても賢いこと。
- ③ ひどくて黙っていられないこと。
- ④ 相手にしないこと。
- ⑤ 好意的に世話をすること。